

## Vol.7 コードやスケールの、メジャー or マイナーを決める 1 音

どうも、大沼です。

前回までで、メジャー、マイナーペンタの全 5 ポジションと、ペンタのトニックをずらして、全ての key に対応する為の基本を学びましたね。

もしかしたら、あなたが今まで弾いたことのあるソロやフレーズに、ペンタトニックスケールが沢山使われていることに気付いたかもしれません。

ぶっちゃけた話、ペンタの全ポジションとトニックのずらし方を知っているだけで、かなりの数のギターフレーズが耳コピできたりします。

普段聴いている曲で、「あれ、これ聴き取れそうだな」と感じたら、試しに耳コピしてみてください。

最初は単純なフレーズで十分ですので。

やり方としては、まずは口で歌ってみて、それからペンタのポジションを色々ずらしてみ、音が合うトニックのポジションを探ります。

世の中の大半のフレーズは、今までやってきた、第 1、第 2 ポジションで演奏されています。

1~2 小節位の範囲や、ワンフレーズでもいいので、自分から進んで聴き取りにチャレンジしてみることが重要です。

それでは、今回は、E マイナーペンタ/G メジャーペンタの第 1、第 2 ポジションを使ったギターソロの実例を 1 つと、タイトルのにある通り、コードやスケールの

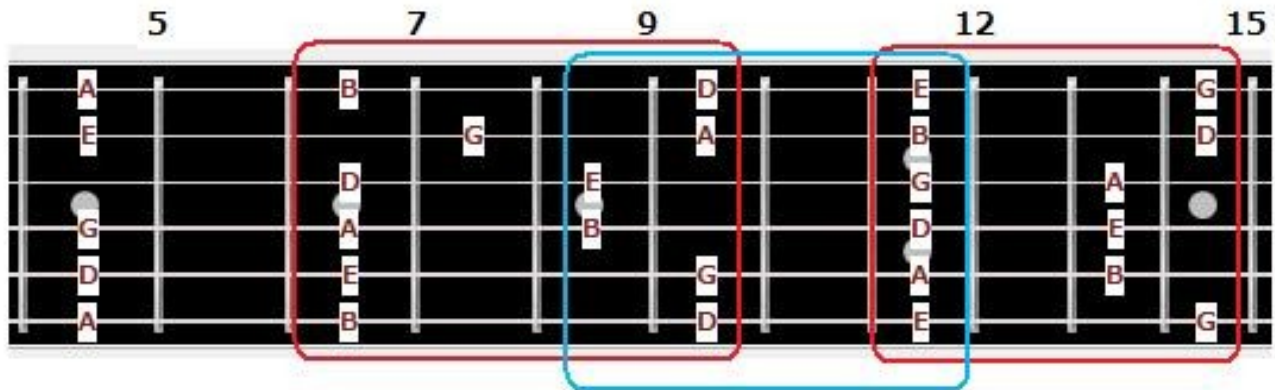
### 『メジャー or マイナーを決める 1 音』

これを学びましょう。

まずは今までの復習と実戦をかねて、とある楽曲を参考にした、ギターソロのサンプルから行ってみましょう。

モデル楽曲は、Eric Clapton(エリック・クラプトン) の『Change The World』です。

今回は、Eマイナーペンタ/Gメジャーペンタの、第1、第2ポジション周辺を主に使ってるソロです。



青枠で囲った第3ポジションは、「そこを使っている」と言うよりは、**第1、第2の2つのポジションを行ったり来たりするために通過している**、といった感じですね。

何度も書いていますが、ペンタトニックを使う場合は、使用頻度としては、第1、第2ポジションがほとんど(8~9割くらい)で、その他のポジションが1~2割といったところです。

もちろん、音楽ジャンルやその人の演奏スタイルにもよるんですが。

でも『じゃ、第1、第2だけやれば良いじゃん』という話ではなくて、他のポジションを覚える事も非常に重要なのです。

今後やっていく、他のスケールを覚える時の基盤になりますし、第1、第2ポジションからの拡張(使うポジションを広げること)や、指板を横に大きく動くフレーズなどを弾く時に必ず使います。

まあ、要するに、ギタリストとして知っていて当然の素養であると同時に、純粋にネタやフレーズを増やすのに役に立つ、ってことですね。

では、実際のソロの方についてみましょうか。

※このテキストでペンタのポジションにつけている番号は、実際の演奏での使用頻度から決めています。他者に、このテキストで書いてある番号で言っても伝わらない可能性があります。

※主に日本で解説されているポピュラーミュージック関係の音楽理論は、アメリカのバークリー音楽大学発のルールであることが多いので、興味のある方は調べてみましょう。

原曲はアコギですが、練習する時はエレキでもどちらでも良いです。

ニュアンスをつけるために、要所々々で指弾きを混ぜてみると、原曲の感じが出るでしょう。

### Youtube モデル楽曲原曲リンク

(※万が一、リンク先の音源が削除されている場合は、音源を購入するか、曲名で検索してください)

<http://youtu.be/x11NA63gLDM>

### 【サンプルフレーズ】Eric Clapton 『Change The World』風 2:41～

The image displays a guitar score for a sample phrase from Eric Clapton's 'Change The World'. It consists of four systems, each with a standard musical staff (S-Gt) and a guitar tablature (TAB) staff. The music is in 4/4 time and features various chords (E, F#m7, G, G#7) and techniques like bends and slurs. The TAB includes fret numbers and dynamic markings like 'mf' and 'full'.

※最後の G#7 の部分は、コードの関係で E マイナーペンタ/G メジャーペンタのポジションからは外れます。

## □コードやスケールの、メジャー or マイナーを決める 1 音口

さて、スケールの実例を 1 つやってみたところで、  
今回も、新しいことを学んでいきましょう。

これまでのテキストで、メジャーペンタ、マイナーペンタの両スケールをやってきたのと、  
過去にあなたが何かしらの曲を練習している中で、いくつかのコードを覚えてきたかと思います。

基本的に曲を演奏する中で出てくるのはメジャーのもの(C、G と言ったコードや、C メジャーペンタなどのスケール)か、マイナーのもの(Am、Dm と言ったコードや、A マイナーペンタなどのスケール)のどちらかですね。

他にも種類はありますが、大体はメジャーのものかマイナーのものです。

で、タイトルにもある通り、

### コードやスケールには、メジャーか、マイナーかを決定付ける音

が、あります。

あります、と言うよりは『(その音を)含んでいる』の方が言い方としては正しいですね。

要するに、その音が入っているから、コードやスケールの呼び方が、  
なんたらメジャーだったり、なんとかマイナーだったりするわけです。

その音については細かい解説があるんですが、今回、とりあえずそれは置いて、  
その音の指板上の位置をさっさと覚えてしまいましょう。

そしてその音の(楽典的な)呼び方だけを先に言っておくと、

**M3rd(メジャーサード)と m3rd(マイナーサード)**

この 2 つになります。

## ・M3rd(メジャーサード)

『メジャー』と名前がついていることから分かりますが、メジャー系のコードやスケールは、必ずこの音を含んでいます。

逆に言えば、「この音を含んでいるからこそメジャー系のモノになる」、ともいえます。

では、その音の指板上の場所はどこなのか？、C音を基準に考えてみましょう。

まず、M3rdのC音からの距離はこうなります。

コード的な観点からならば、「ルート音」から4フレット分(2音分)先の音  
(Cコードならルート音がC音でE音がM3rd)

スケール的な観点からならば、「トニック」から4フレット分(2音分)先の音  
(CメジャーペンタならトニックがC音でE音がM3rd)

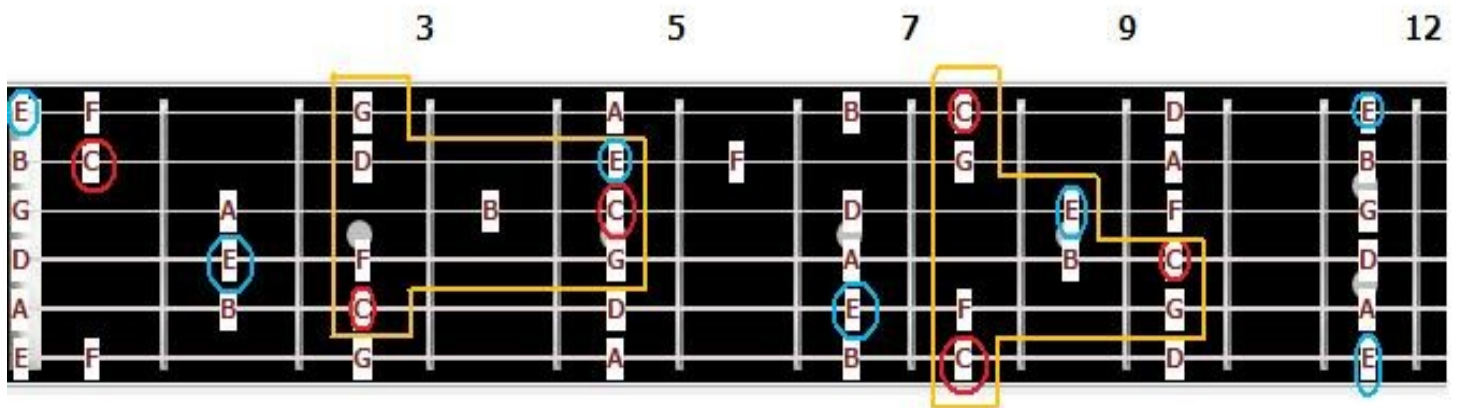
最初に基準とする音の呼び方は、コードか、スケール(もしくはその他)かによって、ルート、トニックと名前が変わりますが、指している音自体は同じです。

なので、「C(メジャー)なんちゃら」のコードやスケールの場合、どちらも、「基準とする音はC音」で、「それに対するM3rdはE音」と言うわけですね。

で、CメジャーペンタやCなどのメジャー系のコードには、必ず構成音にM3rdであるE音が含まれている、ということです。

そして、指板上でルートやトニックから見た、M3rdの位置はこうなっています。

※赤○がルート、青○がM3rd、黄色で囲ってあるのは5弦ルートと6弦ルートのCコードです。



ルート音(スケールの場合はトニック)から見て、この位置に M3rd がある、  
と言うことを覚えてください。

一番分かりやすいのは、5 弦ルートと 6 弦ルートのコードから、  
位置関係を覚えておくことでしょう。(今回は C コードを例にしました)

どれも、ちゃんとルート音から 4 フレット分(2 全音分)離れた音が入っていますね？  
(C 音から見たら E 音)

今まで何となく弾いていたかも知れないコードやスケールにも、  
メジャー系であれば、必ずトニック(ルート)から見て M3rd にあたる音が入っています。

今まで散々やってきたメジャーペンタのポジションにも入っているので、確認してみてください。

細かい解説は今後やっていきますので、  
今はとりあえず、場所だけ覚えてしまいましょう。

#### ・m3rd(マイナーサード)

これも基本的な考え方は M3rd と同じで、マイナー系のスケールやコードには  
m3rd が入っているし、入っているからこそ、マイナー系のモノになるのです。

M3rd と対比しやすいように、同じく C 音を基準に考えてみましょう。

m3rd の C 音からの距離はこの様になります。

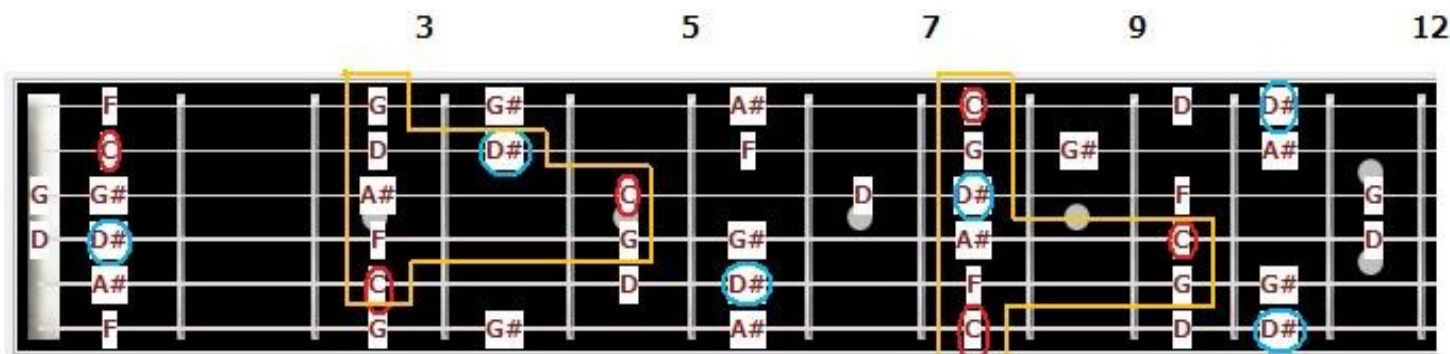
コードだったらルート音から 3 フレット分(1 音半分)先の音  
(Cm コードならルート音が C 音で E ♭ 音が m3rd)

スケールならばトニックから 3 フレット分(1 音半分)先の音  
(C マイナーペンタならトニックが C 音で E ♭ 音が m3rd)

この解説からもわかる通り、  
M3rd と m3rd は半音(1 フレット分)違いです。

この、3rd(サード)と呼ばれる音が半音(1フレット)違うだけで、メジャー(明るい)かマイナー(暗い)かの違いが生まれるのです。では、m3rd も指板上で位置を確認してみましょう。

赤○がルート、青○が M3rd、黄色で囲ってあるのは 5 弦ルートと 6 弦ルートの Cm コードです。(譜面作成ソフトの都合で E $\flat$  音が D# の表記になってますが、正しくは E $\flat$  で呼びます)



こちら、C 音から見て 3 フレット(1 音半)分先の E $\flat$  音を含んでいます。

今までやってきた、マイナーペンタのポジションでも確認してみてください。

トニックから見て m3rd に当たる音が必ず入っていますので。

M3rd と同じく、m3rd の位置も覚えておきましょう。

こちら理論的な解説は後でやっていきますので、今は場所だけ覚えておいてくださいね。

後、「3rd」と言う呼び方が現れている通り、それはトニック(ルート)から見て 3 番目の音になるわけですが、最初に基準にする音を数字の通りに「1st」とするならば、当然「2nd」もあります。

図を見ればわかるように、「1st(トニック、ルート)」と「3rd」の間にはもう 1 音ありますよね。

この音は「2nd(系)」の音なのですが、細かい事は置いて、存在だけ確認しておいてください。

後ほど解説していきますので。

それでは、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼